十日町市 ワークショップ

ニュースレター vol.13

まちなかステージづくり

「まちなかステージづくり」は十日町市のまちなかを盛り上げていくために、まちなかに関係する市民自らが考え、行動し、発信していく場です。

十日町のまちなかについてトークライブを行いました！

日時　11月27日（金）
　　　19時00分～21時00分
場　所　十日町市役所車庫棟２F 大会議室
参加者　50名

プログラム

・開会
・建物の状況、設計について
・まちなかステージトークライブ
　十日町への想い　青木淳 × 山崎亮
・青木淳 × 山崎亮へ参加者からの質問
・閉会

中心市街地活性化推進室
藤巻　裕さん

開会のあいさつ

今日はお集まり頂きありがとうございます。
本日はまちなかステージを進めるにあたってお世話なった青木淳さん山崎亮さんを招いてトーライブを行います。２人は非常に多忙な方で２人揃って十日町でお話を聞けるのは貴重なことです。中心市街地活性化は平成２２年から始まりようやく施設が出来てきました。皆さんこれからもぜひ一緒に盛り上げていきましょう。

01

建物の状況、設計について

青木淳建築計画事務所

市民交流センター

市民活動センター

まず２つの施設の機能について説明します。市民交流センターは十日町市外の人など、市民が様々な人と交流する施設です。そして、市民活動センターは公民館に近い機能で市民がメインで使う施設です。両施設には、半屋外空間の「マーケット広場」を作り、様々な活動を試せる空間を作ります。

○市民交流センターについて

市民交流センターのポイントを説明します。まず大きなポイントは十日町オリジナルの木のサッシを作ります。また、まちの文化歴史コーナーを設置し、国宝火焔型土器などを展示します。この空間では、泥団子をつかった壁を作る予定で泥団子はワークショップ方式で皆さんにも参加してもらいながら作っていきたいと考えています。次に、２階部分ですが、まず廊下も土で作り土間のような空間を作るほか、茶室や和室のほか会議室を作り、大きさを自由に変えられる空間を作ります。

○市民活動センターについて

市民活動センターのポイントを説明します。まず大きなポイントは入り口の空間で様々な活動を試せる「マーケット広場」を作ります。そして、１階部分には、事務室があるほか、大きな空間をつくりワークショップなど多目的に使える空間を作ります。さらに、可動式の展示壁を設置することにより、ギャラリーにもなります。空間は公民館の機能があり、自由な大きなの部屋を作れるようにするほか、利用者を定めないワークプレイスや高校生の勉強スペースも作ります。ここでは、現在、ブンシツ２（青木淳建築計画事務所の現場事務所）でやっているまちなか晩ごはんやワークショップを実施できたらと考えています。

まちなかトークライブ

「青木さん山崎さんに、十日町への想いを語っていただきました！」

右からまちなかステージ応援団　韮澤篤さん　大島亜由美さん
青木淳建築計画事務所　青木淳さん、studio-L　山崎亮さん

大島
それではトークライブを始めていきたいと思います。
まず最初にビックニュースをお聞きしたんですが、山崎さんが新たに本を出版された「ふるさとを元気にする仕事」という本で十日町のことも紹介しているのでしょうか？

山崎
そうですね。もちろん十日町も紹介しています。studio-H5 さんやまちかなステージ応援団の皆さんが繋がることでまちなかに店を開いたりと様々な活動をしているのは、素晴らしい事例なので、紹介させて頂きました。

韮澤
青木さんはプロポーザルで選ばれて設計していただいていますが、最初に十日町に来た時と現在の印象のちがいは有りますか？

青木
まちの住民にいろいろな人がいて、深い地域だなと感じています。
十日町のまちなかのプロジェクトですが、まちなかの人だけではなく松代や川西などその中でも特に若者が参画してくれました。こんなに多様性がある地域は珍しいなと思いました。

大島
お二人が一緒に仕事をするのは今回の十日町がはじめてですが、これまでにあったことや、現在の十日町のプロジェクトについて改めて聞かせて下さい。

山崎
まず、建物の設計を改めて聞いてこういうふうになったんだと思いました。すごくうれしいです。私はもともと、ランドスケープデザインの仕事をやっていて、公園や庭の設計をする仕事をやっていました。そんな中で、市民の声をもっと聞きたいと思い、現在の仕事をやっています。そこで今回、この設計になったのはすごく嬉しいです。市民の声を設計に反映させてるんだったらもっと建築は途中でもいいのではないかと思っていました。そんな中で、これから進化していく建物になっているのは、可能性があります。これから皆でこれから付け足していく建物になっていて、こんな建物は日本で初めてだと思います。

青木
私たちは、半年近くブンシツを出ていたのですが、その後も皆さんがブンシツをつかってくれました。現場に移ると誰も来てくれないんじゃないかと思いましたが、だんだん人が来てくれるようになってきました。人が来るようになり、今後、施設が完成しても人が集まる空間になるように頑張らなくてはと思いました。

大島
私もブンシツの鍋パーティーに参加させてもらったのですが、建築事務所で和室が合って鍋パーティーができるなんてすごく珍しいなと思いました。
今回の２つの施設は公民館の機能もあると思うのですが、そもそも公民館の役割が変わってきたと思うのですが、山崎さんが思う公民館をお聞かせ下さい。

山崎
公民館運動は戦後にすごく盛り上がりました。読売新聞の創設者の正力松太郎さん達の活動がはじめとされています。その後、行政の方で全国展開し、建物を作ったほか、公民館長や社会教育主事などの人達も一緒に育てました。生涯を通して学習する施設として作られましたが、現在は同じことばかりやっていて、戦後の思い、考え方というのが表面上になってきている面もあります。本来の意味での公民館は、もっと地域の課題に対して学んだり、解決策を考えることだと思われます。

大島
ありがとうございます。私の中での公民館の役割が変わりました。話は変わりますが、実は私は、新潟県内で「リリーアンドマリー」という新潟の女の子たちが地域を盛り上げる活動をしています。今回この活動の十日町支部ができ、新しく出来る施設で活動をしたいと考えています。十日町の女の子がこの施設で出来ることはなんだと思いますか？

山崎
特に何もしなくてもいいんではないでしょうか。若い女の子が来てくれさえすれば若い男の子が来ます。そうするとおばあちゃんが来るようになり、その後、おじいちゃんが来るようになる。この連鎖のきっかけが若い女の子なので若い女の子が楽しんでいればいいと思います。何かをやるというよりは常にそこにいて作戦会議をやったり、たまに活動をしたらいいと思います。

青木
いろんな空間が揃っているので、各場所の活動に参加していただくといろんな人が参加するきっかけになると思いますのでぜひ積極的に参加して下さい。

大島
ありがとうございました。私も頑張っていきたいと思います。それでは最後に、皆さんに期待していることを教えて下さい。

青木
私は建物が出来てからいきなり、活動を始めるのは難しいので、ぜひブンシツ２も含めていろんな活動で使っていただいて、いろんな実験を始めて頂きたと思います。

山崎
今回の建物は皆さんの力が試されていると思います。
皆さんが沢山活動して、意見を出していくことで進化していくものだと思っています。それが成立するには、皆さんが主体的に動いていくことが鍵になってきますし、それが十日町の魅力になってきます。ですので、ぜひ積極的に活動して頂けたらと思います。

青木淳 × 山崎亮へ参加者からの質問

Q 活動をしていくうえで仲間づくりの秘訣を教えて下さい。

青木：目標が決まっているのが強いなと思っています。数だけではなく、想いを共有出来るメンバーを集めることだと思います。
山崎：楽しんでもらうことだと思います。内容が楽しいかどうか。
正しいだけでは人が集まれないのが本音だと思いますので、楽しみを創ることが重要だと思います。

Q まちなかで市民を巻き込んでいくためのポイントを教えて下さい。

山崎：まず、最初に市民に直接聞きにいくのがいいと思います。そして、巻き込むのでは無く、巻き込まれにいくのが重要だと思います。自分たちの活動をするのではなく、相手の活動に合わせていくのが大事です。
青木：最初から広げずに数人から仲良くなっていくのがいいと思います。

Q 今までブンシツでは様々な活動が行われていましたが、今後建物が出来ると公共空間になってきて様々な障害も出てくると思います。その中でも、次のステップに進むためのポイントを教えてください。

青木：今度は時間で借りるだけでなく、空間で借りるようなルールづくりも整備する必要があると思います。そのためにもルールを考える場を作っていく必要があると思います。

お問合せ先
十日町市中心市街地活性化推進室　新潟県十日町市千歳町３丁目３番地
TEL：025-757-3691　FAX：025-752-4635MAIL：t-machistage@studio-l.org

これまでのワークショップの様子はこちらをご覧ください。

ホームページ　**十日町市・中心市街地活性化の取り組み**
(www.city.tokamachi.lg.jp/machi/machipurotushin.html)

フェイスブック　**十日町なか元気プロジェクト**
(www.facebook.com/chukatsusinpo/)